

◆ 令和 2 年度 学校 経営 方針 ◆

■教育理念・・・前年度に引き続き、以下の理念に基づいて教育活動を展開します。

愛 と 熱 と 力 の 駒 本

■教育目標・・・教職員と地域が一体となって、子どもたちを育成していきます。

- 豊かな心 自他ともに大切にす心と愛情の育成
- 高い志 高い志と困難に打ち克つ熱意の育成
- 確かな力 たくましい心身と 将来に向けた学力の育成

■駒本小が目指す子どもの姿・・・全ての教育活動を工夫します。

- やさしい子（豊かな心）
- 目標を持てる子（高い志）
- 学び合える子（確かな力）

■取組の重点「6つの充実」

① 人権尊重教育の充実

人権感覚・人権意識の育成、思いやりの育成、いじめ・不登校の未然防止・早期発見・早期対応、挨拶と4つの言葉（はい、ありがとうございます、お願いします、ごめんなさい）の定着、言語環境の整備、アサーショナル・コミュニケーションの指導

② 授業の充実

授業スタンダード（学び合い）の徹底、授業のユニバーサルデザイン化、個に応じた支援、論理的思考力の育成、プログラミング教育の推進、学級活動の充実

③ 特別支援教育の充実

教育環境・学習活動のユニバーサルデザイン化、保護者との合意形成に基づいた指導、個別指導計画に基づく指導、関係機関との連携

④ 町と響き合う教育の充実

地域・保護者との連携、PTA・学校運営協議会・学校支援地域本部との連携、学校ホームページ等を活用した情報発信

⑤ 開発的な生活指導の充実

問題を予見・先取りした生活指導、考えさせる生活指導、実践力が身に付く生活指導

⑥ 特別活動の充実

学級や学校の課題解決への意識、集団の中での合意形成、個性の伸長と自己肯定感の育成、自主的・実践的な集団活動

◆ 定泉寺 こども 食堂 の 運営 ◆

■定泉寺こども食堂は、長期休暇中や土日・夜間等、学校が閉鎖中に困ったことがあったとき、子どもたちが一人でも安心して駆け込める居場所づくりを目的としています。このこども食堂は、定泉寺の全面協力をいただきながら学校運営協議会の委員が発起人となり、駒込青少年健全育成会や社会福祉協議会のご支援のもと、企画・運営を行っています。駒本小の児童だけでなく、広く地域の皆様にご利用いただくことで、児童と地域を繋ぐ役割も果たしています。

今年度も新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、感染症拡大による休校措置が実施されない限り「定泉寺こども食堂」を開催していきます。民生児童委員・保護司・看護師による子育て相談も随時行っています。どうぞお気軽にご参加ください。（※利用料 こども無料・大人 300 円）



◆ 学校 支援 地域 本部 の 活動 内容 ◆

■駒本小学校の特色ある教育活動の1つとして、学校支援地域本部による教育支援活動が挙げられます。

令和2年度も継続される予定の活動の一部をご紹介します。

○町しらべ



○留学生による外国語活動・国際交流



○家庭科ミシンサポート



○読み聞かせ活動



○音楽の授業の講師派遣（お琴）



○オンライン教育の環境整備支援



◆ 協議 会 委員 の 紹介 ◆

- 水木優香・・・文京区青少年委員 学校支援地域本部地域コーディネーター 元PTA会長（※協議会会長）
- 丸山雄二・・・大正大学講師 前主任児童委員 元PTA会長（※協議会副会長）
- 中西 薫・・・向丘青少年健全育成会会長
- 武智弘英・・・駒込青少年健全育成会会長 保護司 少年補導員 行政相談員 元PTA会長
- 原田 実・・・保護司
- 根尾英子・・・保護司 学校支援地域本部地域コーディネーター NPO 法人えこお代表
- 大畑雅一・・・吉片町会長 同窓会長 民生児童委員
- 寺澤弘一郎・・・白山上自治会長 駒本小避難所運営協議会会長
- 吉田 亨・・・肴町町会長 ●大畑清心・・・蓬萊町会長
- 灰野廣美・・・浅嘉町会長 ●松本政雄・・・曙町副会長
- 牧谷嘉明・・・元PTA会長 現PTA顧問 学校支援地域本部地域コーディネーター
- 山口幸浩・・・元PTA会長 ●武智公英・・・現PTA会長
- 宇野高雄・・・現PTA副会長
- 吉岡 淳・・・校長 ●吉澤哲則・・・副校長

◆ ご挨拶 ◆

■新しいインクルーシブ教育の形
協議会会長 水木優香



新型コロナウイルスの流行は、本校が一番大切にしてきた「繋がり」を遮断しました。しかし「繋がろうとする力」は教職員・保護者・学校支援地域本部を動かし、区内で最初にオンラインホームルームを開始しました。そして分散登校が始まってからも暫くの間オンライン授業は続き、今でも登校に不安を抱える児童が授業を受ける選択肢の1つとして機能しています。

学習補助動画も約150本作製されました。予習・復習の学習に活用する中で、自分が知っている先生が話している安心感があり、分からないことも質問しやすい環境が整いました。動画での学習の方が、周囲に気が散ることがなく集中しやすかったという児童もいます。

今こそ「誰もが学ぶ喜びが感じられるインクルーシブ教育環境」を発展させるチャンスです。児童一人一人が繋がっている安心感を土台に、学び続けられる環境を作っていきます。